

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

## 資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 語学スキル | つながりづくりのガイダンス (4)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&amp;A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

### つながりづくりのガイダンス (4)

#### 「つながり」づくりには、必ずエネルギーが必要

理解のカギ：集団が大きければ大きいほど、「つながり」をつくるのに大きなエネルギーを要する

#### 1対1の場合

1対1の場面で手を抜く人は多い。

相手が自分の話を聞くのは当然だと受け止めてしまう。

だが、それは失礼な態度だ。

特に友人や家族など、相手が近い場合に陥りやすい過ちだ。注意しよう。

誰かと1対1で話すときは、聴衆の前で喋るときと同じように、精神的にも気も引き締めて臨もう。会話に意識的なエネルギーを注げば、相手に絆を感じてもらえることも、だいぶ案になる。

1対1の会話でエネルギーを高める方法を探しているなら、私と妻が長年心がけている方法を試していただきたい。

- ・その日に起きた主な事柄は、紙に書き留めておく
- ・重要なことについては、ほかの人に話す前に、関係のある人に話す
- ・毎日時間をとって、一緒に互いのリストに目を通す

意識的な取り組みとエネルギーを必要とする作業だ。ぜひ、やってみてほしい。

#### 集団の中にいる場合

集団や会議に漂う空気はさまざまだ。

「問題を片付けよう、成功させよう」と、室内に強いエネルギーが漂っていることもあるだろう。

反対に、皆を奮い立たせてエネルギーをかき立てなければならぬこともあるだろう。

集団を相手にコミュニケーションを図る際は、室内の空気に関心でいてはいけない。

よい雰囲気だったとしても、エネルギーをこめて作業に臨み、その力を維持しよう。

情性で取り組んではいけない。

意識してエネルギーを保っていれば、その体験は全員にとって満足のいくものとなりやすい。

加えて、そうやって熱意を保とうとする責任感に対して、人々の尊敬も得られる。

私は年に2、3回ほど、15人から30人の企業幹部が集まるリーダーシップ・セッションの司会をする。

そこで私がいつも使っているガイドラインをお教えしたい。

- ・セッションが始まる前に、各人のそばに行って挨拶する
- ・全員に問いかけをして、それぞれの特徴を知る
- ・セッション開始の際に、「会議の主導権は参加者にある」と示す。参加者から私に質問があれば、全力でその問いに答える
- ・議論に加わるのをためらっている人がいたら、その人の特徴を話題にし、テーマとの関連性を示して、その人を議論に引き込む
- ・セッションの最後に、自分自身の改善の余地について意見を聞く

#### 講演をする場合

「講演者にエネルギーを与えよう」と思って聞きにくる人などいない。

差し出すのではなく、得ることを期待して、ショーやカンファレンスやワークショップに来るのだ。

講演をするときは、それを必ず念頭に置いてほしい。

聴衆の数が大きければ大きいほど、発揮すべきエネルギーも大きくなる。

自分のエネルギーをどれだけ高められるか、考えてみよう。

たとえば準備をしていれば自信がつかうので、それがエネルギーになる。

話す内容に信念があれば情熱が生じるので、それがエネルギーになる。

人を信じていればポジティブになれるので、それがエネルギーになる。

エネルギーがあればあるほど、それが聴衆にも伝わって、「つながり」が生まれる確率も高くなる。

(つづく)

傾聴

語り部スキル

Worker's Library 会員登録  
お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ 📄 このサイトについて 📄 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE 【ワーカーズ・ライブラリー】

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.